

# 研究のあしあと2

令和5年度 久美浜小学校研究推進部

令和5年8月

7月5日、今年度最初の研究授業を4年生の川上先生にお世話になりました。「総合的な学習の時間」は、授業が進むごとに計画していた内容と変化していくことが多く、学期末の大変忙しい中でたくさんたくさん考えていただきながら当日までの準備、指導案作成、授業本番を行っていただきました。

それだけでなく、タブレット学習を取り入れたグループ等の話し合い活動も取り入れられ、新しい授業展開を見せていただくことができ、大変勉強になりました。慌ただしい中、本当にありがとうございました。



7月5日(水) 5校時 第1回目  
「久美浜町の自然について考えよう」  
～自分たちにできることはないかな～  
4年生 授業者 川上 由希子



## 研究主題とのかかわり

いつも何気なく見ていた海や川に繰り返し関わったり、実際にたくさんのゴミを目の当たりにしたりして、海を汚す要因が自分達の生活と深く関わっていることに気づかせたい。そして、自分達が住んでいる地域の環境について自分事として深く考えさせるようにしていきたい。

また、「久美浜町は、自然が豊かだ」と、一定認識している児童が、その豊かさを保つための地域の活動や願いを知ることで「自分達にもできることはないか」と、考えさせ、久美浜町に対する愛の気持ちを育てていきたい。

事前研究会 〈6月30日(水)〉 司会・和田 記録・教頭

## 授業者より

- ・単元目標は、1文にするのがよいと大久保先生からの話もあり、1文にした。
- ・1回調べ、まとめ、もっと調べたいことを聞くと、生き物、ごみ、大白鳥、昔の海との違い、地域の思いを聞きたい、などが出てきた。
- ・ここから自分たちにできることを考え、振り返り、実践、振り返り、実践を繰り返し、どこかに発信できればと考えている。
- ・海を汚す原因と生活を絡めて考えたり、できることを見つけたりできたらと考えている。
- ・まず個人で考えさせ、ロイロを使って、同じグループ内の考えもみながら、自分の考えを定められるようにしたい。

## 意見・質問

- ・きれいの定義は定まったか。  
→子ども達のごみがないイメージか。言葉の意味を調べたりしている。
- ・水質検査キット(川)の配布文書が届いている。活用しては。どんなことがきたないのか、数値で見えたら面白いかもしれない。(客観的にも)
- ・導入で「海を汚す・・・」が自分事にならないと、展開につながらない。そこがポイントになると思う。
- ・このままでは、大人になったとき、どうなるか予想させては。昔から今、未来を見通して、君ならどうする?と将来を予想しながら考えさせても。

研究授業・事後研究会〈7月5日(金)〉 司会・吉田 記録・福富

参観の視点(1) 主体的に課題をもって探求する授業について

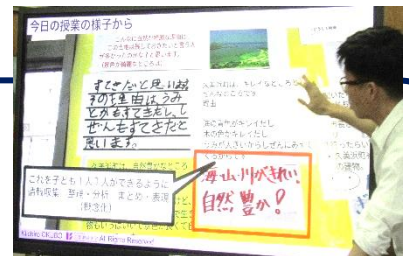
- ・掲示物で単元全体の構成が良く分かった。児童のわかったことからゆさぶりをかけ、今日の授業が成立していた。

- ・文字入力をタイピングの宿題でされていて、やっぱりそれだけのことで、きちんと自分の書きたい言葉を入力できていた。
- ・児童が「自分で考えてそれを自分で進めていくこと＝探究なのだ」と感じた。指導者側から指示をするわけではなく、というのがよかった。
- ・導入の課題。自分達でめあてや方法を考えさせる手法もありかもしれない。それが主体的な授業につながる。



### 参観の視点（2）地域とのつながりを深めることについて

- ・漂着ごみのこと、地域の方の思いを受け止めての今日の授業。⇒解決したい等、子ども達に問題意識を持たせたことが大きかった。
- ・体験に勝るものはないと感じた。ゴミ拾い体験⇒廃材での作品作りなど強烈に残っている印象。だから、3つの柱「農薬」「ごみ」「排水」などに分けて体験させるなどしていたら、本時の授業もとらえさせたいことが違っていただけたのかもしれない。
- ・その他
  - ・子ども達は調べたことをまとめる⇒発表することについて力が付いていると思った。
  - ・ロイロを使って、こんなことができるという授業を提示できたことが大きな役割になった。
  - ・「今日のゴールの姿」を子ども達がイメージした中で授業が進められていたことは、本校にとって大きな成果。
  - ・全員が発言することも視野に研究を進める必要があるのではないか。



### 大久保先生からの指導助言

- ・導入はギュッとする。マックス5分。集中力との関係。
- ・知らない言葉が出てきた時に国語辞典で調べるなども。
- ・授業規律は大切。最初はタブレットを閉じるのはOK。置く場所やファイルに入れさせるなども。
- ・子ども達が自分で課題を立てて、情報を集め・・・とできていく授業が毎時間展開できるとよい。逆に1回、社会全体でできることを考えて、自分達にできること、できないことを整理していく方法でも良かったかもしれない。

〈授業者の振り返り〉 ※単元を終えて～事後研で学んだことや新たに実践したこと、その後の学習は？

教師側が単元のゴールを明確にもち、そこに向かっていくために子どもたちに「地域への愛着」を育てるだけでなく、地域教材を使ってどんな力を身に付けさせていくのか、をしっかりとっておかないといけないと改めて考えさせられた。また、子どもたちがどのような課題で、そのような活動なら探究できるのか、その時間の課題設定、単元の課題設定がとても大事でとても難しいと感じた。が、そこに、面白味も出てくるのだろうとも思った。ICTを活用した授業では、まず教師側がスキルを身につけ（思考ツールなどの使い方を知っておく）児童が自分たちで探究的な学びのサイクルをつくっていけるような学び方ができるように自己研鑽していきたいと思う。

### ～今後の研究の方向性について（今回の研究で明らかになったことを踏まえ）～

今回の授業は、何よりもタブレットを中心に新しい授業の展開を見せていただくことができたのが、本校にとって大きな成果だったように思います。（ありがとうございました！！）その中で

- ①先生方が感じられた、子どもの課題をクリアするために、「今付けさせたい力は何か」。
- ②総合は、内容ではなく、（概念的な知識はあるが）他の教科で学んだスキルをいかして探究していく教科であることを頭において、今後児童への指導にあたっていくことが重要だとお教えいただきました。また、大久保先生の話の中で、先生方も授業研をタブレット持参でという話がありました。研推の方でも、何かしらの方法を話し合っていきたいと思います。